ヘンリー、シーボルト氏獻呈

歐州十八國豫算論

第二号

大藏省
飜譯課

414
A 4510
2

宮内省圖書寮

第三　丁抹國ノ豫算

毎年第九月上下両院集會ノ時ニ臨ミ政府ヨリ其翌年ノ豫算書ヲ差出スモノトス但シ其豫算書ハ極メテ詳細完全ナルヲ要ス

同シク両院集會ノ時ニ臨ミ前二週年間ニ収入セシ金額ト支出セシ金額トヲ登載セル決算書ヲ添付シテ差出スモノトス

若シ會計年度中仮令如何ナル臨時ノ費用ヲ要スルコアルトモ之レカ為メニ其都度々政府ヨリ更ニ一篇ノ豫算書ヲ差出スモノトス

是ノ政府ノ會計年度豫算書ハ先ツ第一ニ下院ヘ之レヲ差出スモノトス

此際下院ノ議員ハ豫算書ノ前撿査ニ従事セン為メ更ニ分離シテ五局ト成ルモノトス

各局一名ノ報告人ヲ命任シ五局ノ報告人合シテ五名トナリ以

大蔵省

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

テ各局ヨリ申出セレ意見ニ就テ須ラク論議ヲ尽クシ一篇ノ報告書ヲ編製シ以テ各省ノ長官ト照會ヲ遂クルモノトス此報告書ヲ呼ンテ「プレパレイトリイ、レポルト」ト云フ(即チ前以テ照會スル報告書ト云フノ意ナリ)各省ノ長官ハ此報告書ヲ以テ照會ヲ受クレハ更ニ他ノ報告書ヲ編製シ以テ飽ク迄其軍前申立テタル豫算書中ノ件々ヲ主張シテ各局ノ意見ニ相反スルク若シクハ之レヲ變シテ各局ノ意見ニ同意スルク否ヤヲ回答ニ及フモノトス

斯ク如ク夫レ各局ノ報告人ト各省ノ長官トノ間ニ報告書ヲ交換シ意見ヲ問答スルヲ以テ豫メ各省申立ノ主旨ヲ弁別シ置キ以テ下院ノ衆議ニ付スルモノトス此際ニ於テハ下院ノ各議員其所見ヲ発言シ得ルハ申ス迄モナク其至当ト思考スル所ノモノハ如何ナル改正ヲモ申立得ルモノナリ抑モ以上開陳スルカ如ク各省ノ長官ト各局ト相互ヒニ意見ヲ問答シ協議ヲ竭クス所ノモノハ各省ヨリ申出シタル豫算書中ノ件々ヲ明亮ニシ且ツ之レヲ変更センカ為メニ頗フル緊要ノモノナリ

不素下院ハ各局ノ報告人等編製セシ報告書ニ左袒シニ浜議スルヿ十中ノ八九ニ居ルモノナリ

凡ソ政府ヨリ豫算書ヲ下院ニ差出シタル後下院之レニ改正ヲ加フルニモセヨ加ヘザルニモセヨ一旦下院ノ議定ヲ経レハ乃チ之レヲ上院ニ差送ルモノトス

上院ニ於テ之レヲ黙撿調査スルヿ恰カモ下院ト全一ニシテ初メニハ先ツ各局ノ撿査スル所トナリ然ル後衆議ニ付スルモノトス

然ルニ若シ豫算書ノ事ニ関シ上下両院ノ所見相異ナル時ニ当リテハ宜シク両院ヨリ委員ヲ差出シ一ノ合併局ヲ設ケテ以テ

両説相符合セザル件々ヲ纏ムルモノトス

然ルモ尚ホ議論區々ニ分レ事纏マラザルニ当リテハ施スニ如何ナル處置ヲ以テスベキカハ當日上院ト下院トノ間ニ起ル重大ノ疑問ナリ但シ此際ニ当リテハ政府ハ上院ノ方ニ左袒シ下院ハ凡ソ上下両院ト各省トノ責任ニ関スル一切ノ権理ヲ請求スルモノトス

凡ソ丁抹國ノ豫算書ハ之レヲ数項ニ別ツテ一官廳毎ニ其費用ヲ掲クルモノトス而メ尚ホ又各官廳ノ諸費用ヲ小別シテ数項ト為スヿヲ得ルモノトス

試ミニ目下丁抹國豫算書ノ區分ヲ掲クレハ即チ左ノ如シ

第一　帝室費用

第二　大政官費用　（即チ上下両院参議其外ノ費用）

第三　外務省費用

第四　司法省費用

第五　内務省費用

第六　海軍省費用

第七甲　國債省費用

第七乙　大蔵省費用

第八　陸軍省費用

第九　植民地事務局費用

第十　臨時費用　（但シ十萬「フロリン」ノ額ヲ超越セザルモノトス）

斯ノ如ク豫算書ヲ大別スルノ外ニ尚ホ一項毎ニ之レヲ小別シテ数條款ト為シ各款必ラス余分ヲ見積リ豫算シ置クモノト

凡ソ豫算書ノ事ニ付テハ先ツ各局ニ於テ議決セシ後之レヲ上

下両院ニ付シ両院ノ裁決ヲ仰クモノトス

抑モ上下両院ノ獨立タルヿト両院ヨリ命任シタル各局委員ノ獨立タルヿトハ丁抹國憲ヲ以テ充分ニ之レヲ証明スルモノナリ

各局委員ヲ撰挙スルノ法ハ宜シク投票ヲ以テ之レヲ行フモノトス但シ投票ノ数少ナキ方ヨリ一名ヲ出シテ必ス委員ノ列ニ加フベキモノトス

凡ソ豫算書ト符合ノ諸遣拂ハ一切再検査委員之レヲ総理スルモノトス但シ此委員ハ僅カニ四名ニシテ各院ヨリ二名ツヽ差出スモノトス

凡ソ此再検査委員管掌ノ事務ハ一旦上下両院ニ於テ之レヲ調査シ両院ノ了承ヲ経テ初メテ之レヲ計算局ニ送リ渡スモノトス

抑モ此計算局ノ役員ハ奉職年限ヲ終身ト定メ無テ下院ニ於テ人撰シ置タルモノヽ中ヨリ撰挙シテ國王ニ命任スルモノトス

前文ニ開陳スル如ク丁抹國ノ豫算制定ノ手続ハ百般ノ諸費ヲ抑制スルニ付キ頗フル実功ヲ表証スルニ至リ以テ歳出費ヲ節減スルニ及ヒタルハ実ニ測ルベカラサルノ幸福ト云フベシ

第四　佛蘭西國ノ豫算

佛蘭西國政府ハ毎年巴方門集會ノ初メニ際シ其翌年ノ豫算書ヲ下院ヘ差出スモノトス但シ其豫算書ニハ兼テ徴収スベキ金ヲ受ケタル諸税ヲ一々詳記シ加之此等諸税各種ノ収入高概算并ニ諸官廳ノ常用費ト非常用費トノ為メニ要求スル百般ノ費途ヲ詳細ニ載記スルモノナリ

政府ヨリ此豫算書ヲ差出シ下院之レヲ受理セシ上ハ即チ印刷

レテ以テ已ク門ノ諸議員ヘ配付スルモノトス

此豫算書ハ先ツ第一ニ下院ニ於テ之レヲ計論シ各議員ノ意見ヲ聞キ然ル後上院ノ論議ニ付スルモノトス

凡ソ何カノ法令ニ限ラス渾テ下院ヘ差出シタルモノハ即チ左ノ手続ヲ以テ處分スルモノトス

毎月閣抽ノ法ヲ設ケ下院ヲ別テ十壱名ツヽヲ以テ一組ノ委員ト定メ一組毎ニ一應其法令ヲ計論シ然ル後事ノ軽重ヲ見計ヒ以テ一名乃至二名ノ報告人ヲ命任スルモノトス

此委員一組二組若シクハ三組相合シテ一局ト成リ職トシテ法令ノ全検査ヲ為シ且ツ法令ノ改正ヲ申出ツルモノアレハ之レカ全検査ヲモ為スモノトス

此等全検査済ノ後此局ヨリ一篇ノ報告書ヲ下院ヘ差出スモノトス

豫算書調査ノ手続モ均シク前段法令検査ノ手続ヲ用ユルモノニシテ豫算調査掛リノ委員ハ其数三十三名ヨリ成ルモノトス

但シ右三十三名中尚カ小別シテ数多ノ科ヲ設クルモノトス

豫算調査掛ノ委員須ラク其主務ヲ取扱ヒ終リタル時ニ臨ミ其事ノ結末ヲ報告書中ニ具載シ之レヲ下院ニ上申スベキモノトス

但シ此報告書ハ其後チ出版シテ以テ衆議員ニ配付スルモノトス

此時ニ至ラサレハ下院ノ衆議員會合シテ衆議ヲ始メス

凡ソ政府ヨリ其歳出費ノ足ラサルヲ補フ為メク若シクハ非常ノ費用ヲ要スルヲ何レノ道其會計年度ノ勘定ニ属スル費用ニ関シ申出ス所ノモノト金穀ノ一ニ付テ政府ヨリ申出ス諸法令ト且又全國ノ歳入若シクハ歳出ヲ増減セント欲シ已ク門ヨリ論端ヲ開キシ諸見込ノ如キハ一切豫算調査掛ノ委員ニ送付ス

ルモノトス是ヲ以テ縱令ヒ何様新規ノ費用若シクハ何様ノ增費ノ事ト雖ヒ渾テ皆豫算調査掛ノ委員ノ總理ヲ免クルヲ得ザルモノタリ

上院ニ於テモ前同様ノ成規ニ準據シ豫算書ヲ調査計論スルモノトス尤モ上院ノ豫算調査掛ノ委員ハ其人員僅カニ十八名ヨリ成ルモノトス

凡ソ豫算書中歲出ノ部ハ之レヲ數項ニ区別シテ一官廳毎ニ一項ヲ設ケ又之レヲ分ッテ數條款トナスモノトス

本素豫算書全部ヲ豫算調査掛ノ委員ニ送付スルト雖ヒ既ニ前文ニモ開陳セシカ如ク官廳ノ員數ニ應シテ豫算調査掛ノ委員ヲ小別シ以テ各掛リノ委員ヲ置クノ習慣トス

試ミニ例ヲ引テ之レヲ証セン千八百七十七年豫算調査掛ノ委員ハ今現ニ集會ノ際ニアリ分レテ以テ五科ノ掛リ委員ヲ置ケリ即チ左ノ如シ

第一　理財掛

第二　内務、アルデリア（佛國ノ殖民地ナリ）事務及ヒ外務掛

第三　海陸軍掛

第四　司法、教部、文部、及ヒ美術掛

第五　工部、勧商及勧農掛

凡ソ豫算書ノ可否如何ニツキ委員見込ヲ述フルヿ順次條款ヲ追フテ行フモノトス

仮令ヒ豫算調査掛ノ委員議決セシ所ノモノト雖ヒ未タ法律上ノ効力ヲ有セサルモノニシテ上下両院ニ於テハ尚ホ更ニ其意見ヲ申出スベキ全権ヲ有スルモノナリ例ヘハ政府ヨリ申出シタル費用ヲ豫算調査掛ノ委員ハ不承知ニシテ遂ニ事行ハレサル所ノモノヲモ議員總集會ノ際ニ於テ更ニ政府申出ノ通リ許

可ニ上ルヿアリトス是ヲ以テ又改府ヨリ豫算ニ関シ改正ヲ申出レ家前豫算調査掛ノ委員ハ之レヲ許可セサリシト雖モ却テ議員総集會ノ際ニ於テ申出ノ通リ許可ヲ得其意見ヲ貫クヿアリトス

既ニ前文ニ述ヘタル如ク豫算調査掛ノ委員議決セシ所ノモノハ法律上ノ功力ヲ有セサルモノニシテ啻ニ一個ノ決議トシテ議員総集會ニ擧クルモノナリ

尤モ豫算調査掛ノ委員ハ兼テ其命任ヲ蒙ムリタル事務ハ一切之レヲ遂クベキ須要ノ権力ヲ有スルモノナリ

又豫算調査掛ノ委員ハ凡ソ其豫算調査ノ際不審ノ廉アルトハ之レヲ各官廳ノ長官ニ質シ一々答弁セシムルヿヲ得ルモノトス

今現ニ佛國ニ於テ実行スル法制ニ拠レハ凡ソ政府ニ於テ遣拂フ百般ノ費用ハ細大漏サス皆ナ上下両院ノ総理スル所ニ属シ頗フル実效アリトス

然リト雖モ不幸ナル哉佛國ニ於テハ英國ノ如ク凡ソ巴力門ノ議員タル者ハ仮令ヒ改府ヨリ豫算ノ事ニ付テ改正オヲ申立以テ更ニ新規ノ歳出費ヲ起サントシ若クハ其増加ヲ請求スルヿアルモ之レヲ許允スルヿヲ禁スルノ律ナシ是ヲ以テ豫算書編製ノ時ニ当リテハ改府ト両院トノ間ニ示談ヲ為スヿ間々有リ勝テノモノタリ其故ハ各官廳ハ大ヒニ其事務ヲ張クント欲シテ増費ヲ要スルニ両院ハ職トシテ増費ヲ節シ以テ其歳出費ヲ減省セント欲スルヲ以テナリ

第五　日耳曼國ノ豫算

日耳曼帝國及ヒ普魯士聯邦ノ改府ハ毎會計年度ノ初メニ先立テ其年ノ歳出入明細豫算書ヲ巴力門ニ差出スベキモノトス但

レ此豫算書ニハ日耳曼帝國ノ諸金穀出納ノ明細簿ヲ添付シテ
差出スモノトス即チ毎會計年度此明細簿ニ拠ツテ豫算書ヲ編
製スルモノニシテ此明細簿中載スル所ハ歳出入一層詳細ナル
而已ナラス加之前数年間ヨリノ歳出入増減ヲ尚ホ精密ニ弁明
スルモノナリ
日耳曼帝國ト普魯士聯邦トニ於テハ上下両院ニ於テ豫算書ヲ
決議シ且ツ之レヲ実施ノ法令トナスヿヲ得ルモノナリ
又上下両院ニ於テハ日耳曼帝國及ヒ普魯士聯邦ノ歳出入費ヲ
夫々調査シ許可スルノ権アリ
凡ソ會計上ニ関スル諸法令ハ之レヲ豫算調査掛ノ委員ニ付シ
テ計論許可セシムルノ成規トス
毎年上下両院ニ於テ殊更ニ豫算調査掛ノ委員ヲ撰挙シ前以テ
之レヲ調査計論セシムルモノトス

尤モ最前ハ此豫算調査掛ノ委員須ク豫算全部ニ付テ調査計
論セシモノナリシカ日今ニテハ啻ニ上下両院ノ豫算書中ニ
就キ格別細密ノ査問ヲ要求スル廉而已ヲ調査スル事トナレ
リ
此豫算調査掛ノ委員ハ其員数十四名ヨリ少ナカラス三十五名
ヨリ多カラサルモノトス
此豫算調査掛ノ委員調査計論ノ際大蔵省及ヒ其他関係アル諸
官廳ヨリ時宜ニ依リ委員ヲ差出スヿアリトス
此豫算調査掛ノ委員ハ調査討論ノ終リニ臨ミ豫算書中ノ件々
ヲ議決シ之レヲ上下両院ニ差出スモノトス且ツ数名ノ報告人
ヲ命任シテ以テ其調査計論ノ手続オヲロ舌上ヲ以テカ若クハ
書面ヲ以テ上下両院ニ上申セシムルモノトス
然ルニ若シ上下両院ニ於テ此豫算調査掛ノ委員ヲ撰挙シ調査

計論ニ從事セシメサルヽハ議長ヨリ各議員ヲ命シテ委員ト為シ以テ豫算書中格別ノ廉ニ就テ調査セシムルモノトス即チ諸學校ノ事、諸山林ノ事ヲノ如キ格別ナル廉ニ就テ調査セシムルモノ是レナリ

政府ニ於テハ尚ホ又老練ノ官吏ヲ撰ンテ其委員ト為シ以テ會計上ニ係ル格別ノ廉ニ就テ調査セシムルモノトス

凡ソ此委員タル者ハ其調査ノ際何等ノ不審ヲ起ストモ一々政府ヨリ答弁スルモノトス

此委員ハ時々長文ノ疑問ヲ起シ書面ヲ以テ諸官廳ノ長官ニ訊問スルヿアリ諸長官モ又書面ヲ以テ之レニ答弁ヲ為スモノトス但シ此等ノ問答ハ須ラク印刷シテ以テ上下両院ノ諸議員ニ配付スルモノトス

抑モ此ホ諸委員ハ各員調査スル所相異ナリト雖モ豫算調査掛ノ委員ハ豫算ノ全部ヲ調査スレ共ソニ撰任セラルヽモノナリ

普魯士聯邦ニ於テハ豫算調査掛ノ委員ヲ小部シテ数種ノ掛リト為シ以テ豫算書中ノ格別ナル廉々ヲ付托シテ殊更ニ調査討論セシムルノ習慣アリトス

凡ソ豫算調査掛ノ委員ハ其議決スル所ノモノニ依リ見込書ヲ編製シ以テ之レヲ下院ニ差出スモノトス下院ニ於テハ充分衆議ヲ竭クシ然ル後之レヲ採用シ若シクハ之レヲ抑ハムモノトス

抑モ日耳曼國ニ於テハ豫算調査掛ノ委員事務取扱ノ順序ト上下両院ノ庶務順序ト区別ヲ立テシ一定ノ成規之レナリ

是ニ依テ之レヲ観レハ平素豫算調査掛ノ委員ヲ命任シテ其年度ノ豫算書ヲ調査セシムルカ否ラサレハ議長ト政府トヨリ夫

々委員ヲ撰出シテ豫算書中格別ノ廉々ヲ調査セシメ決ヲ上下
兩院ノ衆議ニ取ルヤ明了ナリ
若シ人アリ日耳曼國理財ノ現況ヲ千八百四十八年以前同國ノ
政府未タ立君獨裁タリシ時代ノ狀況ト比較スルアラバ先ツ第
一ニ大ヒニ歲出費ヲ減省セシヿヲ了知スル固ヨリ論ヲ俟タス
往古ヨリシテ普魯士國ノ立君獨裁政府ハ重稅ヲ賦課スルヿヲ
深ク忌憚シ特ニ其歲出費ヲ節減センヿニ注意セリ
抑モ日耳曼國ノ政府今日ノ久シキニ至ル迄連綿相存スル所以
ノモノハ畢竟國費節減ノ法斯ノ如ク夫レ良善完備ナルカ故ニ
アラスシテ他ニ何物カアランヤ實ニ節減ノ但シキニ依ルト云
フベシ
今日日耳曼國ニ於テ歲出費大ヒニ張リシル所以ハ稍々右ノ二
事ニ帰スルト云フモ可ラリ二事トハ何ッヤ云ク第一ハ外國ト
政治上ノ関係ニシテ以テ日耳曼ハ聯帝國ノ基礎ヲ立ルヿ第二
ハ國家ニ人富ミ隨ッテ公私ノ需用品一層増殖シテ是レ
ナリ
試ミニ需用品増殖ノ例ヲ挙クレハ麦酒、珈琲又ハ砂糖ノ如キ凡
リ此類日用ノ諸物品皆一人毎ニ要求費耗スル分量三十ケ年以
前ヨリ一層増加シ加之又諸學校、諸技藝及ヒ諸學術ノ類、諸市街
及ヒ諸道路ノ類、善美ノ家屋オ百般ノ事物ニ付キ一層ノ増費ヲ
要求スルニ至レリ
仮令此類ノ事ニ付歲出費増殖スルヿアルトモ此オハ深ク憂歎
スルニ及ハサルモノトス

第六　荷蘭國ノ豫算

荷蘭國ノ會計年度ハ一月一日ニ起リ十二月三十一日ニ終ルモ
ノトス

毎年第九月上下両院集會ノ始メニ際シ兼テ國憲ヲ以テ定メア
ル通リ翌年ノ歳出費豫算書ヲ差出シ同院ノ許允ヲ請フモノト
ス
此豫算書ヲ別ツテ数項ト為シ以テ各官廳ノ費目ヲ區分スルモ
ノトス其別即チ左ノ如シ

甲　帝室
乙　太政官（即チ上下両院、内閣、會計総理事務局）
丙　外務省
丁　司法省
戊　内務省
己　海軍省
庚　大蔵省　國債局
辛　陸軍省
壬　植民地事務局
癸　臨時費

其後追加ノ法令ヲ出シテ毎年ノ歳入出豫算書ヲ差出スヿニ定
マレリ
豫算書中各項ノ費目ヲ小別シテ数條ト為シ以テ詳細之レヲ區
分スルモノトス
下院ニ於テハ此豫算書中各條ニ就テ一々意見ヲ述ヘ之レヲ改
正スルノ権ヲ有スルモノタリ
下院ニ於テ豫算書ヲ議決シタル後之レヲ上院ニ送付シ以テ上
院ノ衆議ニ付スルモノトス尤モ荷蘭國ノ國憲ニ依リ上院ニハ
改正ノ権ヲ付与セスシテ啻ニ上院ハ之レヲ許允シ若シクハ之
レヲ拒ムノ権ヲ有スル迄ニシテ改正ヲ為スヿヲ得サルモノト
トス

毎年初頭ニ当リ荷蘭所属東印度植民地ノ豫算書ヲ別製シ之レヲ上下両院ニ差出シ衆議ニ付スルモノトス

此豫算書モ又之レヲ数項ニ別ツテ一項毎ニ詳細議論ヲ遂クルモノトス

此豫算書ハ両院ノ衆議ニ付シ各條各款トモ一々調査計論スルモノトス

凡ソ荷蘭國ノ豫算書ハ之レヲ下院ノ衆議ニ付スル前先ツ院内ノ五局ニ於テ交々各項ヲ調査スルモノトス但シ此五局ノ議員ハ一局毎ニ其員数十六名ニシテ院内ヲ五分シテ此五局ト為スモノナリ

各局一名ノ報告人ヲ命任シ五局ノ報告人相合シテ五名トナリ以テ豫算各款調査局ヲルモノヲ設クルヒノトス

此五名ノ報告人ハ各局議員ノ意見ヲ詳記シ以テ報告書ヲ編製スルモノトス

此報告書ハ須ラク之レヲ印刷ニ付シ政府ニ差送テ以テ政府ノ意見ヲ問フモノトス此時政府ニ於テモ又一篇ノ報告書ヲ編製シ之レヲ印刷ニ付シ其至当ト思考スル処ニ従ツテ改正ヲ日立テ、以テ回答トナスモノトス

此等院内ノ各局共ニ報告人トモ悉皆獨立ノ権ヲ有スルモノニシテ豫算各款調査局ノ如キハ其所見ヲ加フルアルモノナリ然リ然レトモ通例歳出費ニ関スル事ニ付テハ所見ヲ加ヘサルモノトス

仮令何様ノ歳出費ト雖モ豫メ上下両院ノ許允ヲ得サレハ政府之レヲ如何トモ為スベカラス是ヲ以テ凡ソ歳出費タル者ハ何物ニ限ラス皆豫算書中ノ條款ニ拠ラスンハアルベカラス

荷蘭國ニ會計総理事務局ナルモノ一ケ所アリ抑モ此局ハ全ク

不羈獨立ノモノニシテ其議員ハ奉職年限ヲ終身ト定メ下院ニ於テ撰任スルモノトス

凡ソ歳出費ヲ運拂フニハ各款トモ渾テ皆會計總理事務局ノ許允ヲ請ハサルベカラス是ヲ以テ各官廳ノ長官ハ仮令何様ノ仕拂ヒタリトモ一旦同局ヘ伺出シ同局ニ於テ之レヲ再査許允セレ以上ニアラサレハ仕拂ノ命ヲ下スヿヲ得サルモノトス

會計總理事務局ノ參酌思慮スル所ノ箇條即チ左ノ如シ

第一各官廳ヨリ申出セシ仕拂金ハ豫算書中ノ條款ト相符合スルヤ否ヤ

第二豫算書中各條款ノ金額ヲ悉皆運拂ヒタルヤ否ヤ若シクハ残余ノ金額充分アリテ不足ナキヤ否ヤ

全國行政費一般ニ増シ文武ノ費用両ノナカニ相増セリ今試ニ海陸軍ノ費用ヲ掲クレハ即チ左ノ如シ

千八百五十二年陸軍費用　千八拾萬「フロリン」
仝年　海軍費用　五百四拾一萬五千「フロリン」
仝年　合計　六千九百七拾八萬七千「フロリン」
千八百七十六年陸軍費用　二千四百萬「フロリン」
仝年　海軍費用　千三百六拾三萬二千「フロリン」
仝年　合計　壱億千萬「フロリン」

荷蘭國歳出費ノ増加斯ノ如ク夫レ巨額ナルト雖モ上下両院ノ歳出費ヲ總理スルノ法尚ホ宜シキヲ得タリト云フモ可ナラン蓋シ政府ヨリ新規ノ歳出費ヲ設ケテ新目途ノ為メニ遣拂ハントシ若シクハ徒ニ歳出費ヲ増加シテ旧来ノ目途ノ為メニ遣拂ントシ申出スヿアルモ數回拒絶セラルヽヿモアリ又ハ改正セラルヽヿモアリトス且ツ政府ニ於テハ可成節減ヲ主トシ制限ヲ越エサルヿニ注意ス是レ上下両院ノ只管懇望スル所ナリ

若シ豫算書中某條款ニ付属スル費用ニシテ上下両院ノ許允ヲ得シモノ悉皆遺漏ヒタル時ニハ其官廳ニ於テハ兼テ豫算書中各項ニ什属シ置キタル臨時費ヲ以テ尚ホ又費途ヲ支フルヿヲ得ルモノトス尤モ制限ヲ立テ一口ノ費用千五百萬「フロリン」乃至二千萬「フロリン」ノ金額ニ付キ僅カニ五萬「フロリン」余ヲ出テサルモノトス

斯ノ如ク各官廳ノ定額費外臨時費ノ設ケ之レアル外ニ又豫算書中ノ末項ニ臨時費ノ一款アリ此臨時費ハ五萬「フロリン」ヲ限リ廣ク諸官廳ノ使用ニ供スルモノトス

尤モ此臨時費ハ兼テ上下両院ノ條例中ニ殊ニ表明シアル諸費用ノ中不足ヲ生セシ分ヲ支フルカ為ニ仮用スルヿヲ得ル而已ノモノトス

凡ソ歳出費ノ新規ニ係ルモノハ「千宜」ニ依リテハ更ニ各項ノ臨時費ニ割付クルカ又ハ上下両院ノ臨時處分ニ依テ之レニ充ルヿヲ得ル而已トス

第七　伊太利國ノ豫算

伊太利國ノ會計年度ハ一月一日ニ起リ十二月三十一日ニ終ルモノトス

毎年三月初頭二週日間以内ニ大蔵卿ハ其翌會計年間ノ豫算書ヲ差出スモノトス

此豫算書ヲ分割シテ十部ト為シ一部ハ以テ歳入ニ係リ残余ノ九部ハ以テ歳出ニ係ルモノトス是レ諸官廳ノ数ニ應シテ之レヲ類別セルモノナリ

又各部ヲ分割シテ数條ト為シ以テ可成丈ケ精細詳明ナランヿヲ要ス

此豫算書ハ上下両院ノ許允ト國王ノ允准トヲ受ケサルベカラ

ス且ツ翌年一月以前ニ人民ヘ布告セスンハアルベカラサルモノトス

豫算書中各部ヲ分割シテ二項ト為シ一ハ以テ通常歳入ト歳出トヲ掲ケ以テ臨時歳入ト歳出トヲ載スルモノトス

凡ソ豫算書中各部ノ始メニ一篇ノ報告書ヲ載セ置キ以テ年々相生スル處ノ差違ヲ明示スルモノトス

伊太利國大蔵卿ハ尚ホ又三月初頭二週日間以内ニ前年十二月三十一日ヲ以テ終ルタル會計年度ノ歳出入決算書ヲ上下両院ニ差出スモノトス

此決算書ヲ分割シテ歳出入ノ数款ト為シ以テ前年ノ豫算ト此決算トヲ比較シ過不足ヲ明ラカニスルモノトス

大蔵卿ハ此決算書ヲ差出ス時又前年十二月三十一日ヲ以テ終リタル會計年度ニ係ル會計ノ実況ヲモ併セテ差出スモノトス

下院ニ於テハ其集會ノ始メニ当リ豫算三部調査掛ノ委員ヲ撰挙スルモノトス但シ此委員ハ其員数三十名ト定ム

此調査掛ノ委員ハ豫算決算ノ両書トモ渾テ之レヲ詳密ニ調査點検スルモノトス

凡ソ此調査掛ノ委員タル者ハ其之レヲ至当適宜ト見做ス所ノモノハ増減ヲ申シ出スモ若シクハ又何等ノ変更ヲ申シ立ツルモ其権内ニアリ以テ其見ル所ニ依テ下院ニ報告スルモノトス」

下院ニ於テ調査計論ノ際モ下院ノ各議員均シク増減変更オヲ申シ出スヿヲ得ルモノトス但シ此オノ事ニ付テハ渾テ下院ノ衆議ニ付シ決ヲトルモノトス

豫算決算トモ両ツナカラ下院ノ調査ヲ経其許允ヲ得シ上ハ直チニ之レヲ上院ニ差送ルモノトス此際上院ニ於テハ十五名ノ

會計事務掛ノ委員ヲ撰挙シ以テ之レヲ詳密ニ調査點檢セシム
ルモノトス
此會計事務掛々委員調査済ノ工ハ之レヲ工院ニ出シ衆議ニ付
スルモノトス但シ工院ノ各議員増減変更ナニ付キ各其見込ヲ
申シ出シ得ル丁下院ノ議員ト同権タリ

第八　葡萄牙國ノ豫算

葡萄牙國ニ於テハ毎年上下両院集會ノ始メニ臨ミ其年度ノ歳
出費ニ係ル豫算書ヲ差出スモノトス
上下両院ニテ夫々委員ヲ撰擧シ以テ此歳出費ニ係ル豫算書ノ
諸條款ヲ調査點檢セシムルモノトス
此豫算書ヲ分割シテ数項ト為シ以テ各官廳(即チ内務省、文部省、
大蔵省、司法省、教部省、陸軍省、海軍省、植民地事務局、外務省、工部省、
勧商局、勧農局)ノ費目ヲ區別スルモノトス

凡ソ此調査掛ノ委員タル者ハ豫メ其調査スル部分ヲ別チ置キ
以テ数項ノ歳出費ヲ悉皆夫々ノ委員ニ付シ参考ニ供スルモノ
トス
此調査掛ノ委員ハ豫算書ニ就キ熟考思慮スルニ臨ミ若シ書中
申立ノ費目ニ就キ事由ヲ糺問スルヿヲ要スルトキハ夫々各廳長
官ヲ呼出シ以テ之レヲ糺問スルヿアリトス
此調査掛ノ委員ハ各官廳ヨリ申立ノ費目ヲ悉皆拒絶セザルバ
其依之レヲ許允スルカ若シクハ之レニ変更ヲ加ヘ其報告書ヲ
添付シテ以テ下院ニ差出シ同院ノ衆議ニ付スルモノトス
此豫算調査掛ノ委員ガ仮令ヒ歳出費減省ノ事ニ付キ何様ノ議
決ヲ為セシ所ノモノト雖モ下院ノ衆議ヲ以テ改正セラルヽヿ
之レアリ然リト雖モ政府ニ於テハ改正ノ権ナシ此際政府ノ直
接ナル関渉ヲ有スルハ下院ノ衆議討論アルニ臨ミ均シク其席

ニ列シ言ヲ交ユルヿヲ得ル而已
然リト雖モ政府ハ実際若シ其甲立ノ件々ヲ飽クマデ主張シテ
変セス其件々ニ付テハ利害得失トモ政府其責ニ任スルトキハ仮
令ヒ下院ノ衆議之レヲ非トスルモノ多ケレト雖モ不素其持論
ヲ変セスシテ見込ヲ全フスルヿアリ
此調査掛ノ委員其事務施行ニ於テ獨立獨歩タルヿヲ証明ス
ル一定ノ規程之レナシ畢竟其獨立ノ如何ハ委員ヲ撰挙スル上
下両院ノ性質ニ依ルヤ疑ヲ容レス是ヲ以テ若シ夫レ上下両院
ノ事ヲ處スル多クハ政府ノ意ニ従ヒ各官廳ノ長官ニ左袒シ却
テ之レガ壓制ヲ受クルノ勢ナルトキハ調査掛ノ委員獨立ヲ保ツ
ヿアタハザルヤ論ヲ俟タス
抑モ是近折節歳出費ノ減省アルニ至リタルハ政府ヨリ申立ノ
致ス所ニ因ルモノ多ケレトス尤モ不素上下両院ハ歳出費ノ事

ニ関シ飽マテ其意見ヲ述ヘ能ク之レヲ総理シ大ヒニ実效ヲ奏
スルヤ論ヲ俟タス往々両院ノ総理ヨロシキヲ得大ヒニ実效ヲ
奏スルアルハ申ス迄モナク却テ之レク為メニ困難ヲ生スルヿ
アリシ程ノ勢ヒナリシヿハ之レヨリ前キ千八百六十七年ヨリ
千八百七十一年ニ至ルマテ引続キ両度下院ヲ設ケ以テ各官廳
ノ長官ヨリ申シ出セシ租税増加ノ許可ヲ拒ミタルヿヲ回顧ス
レハ一點ノ疑フヘキモノナシ
斯ル状勢ナリシヲ以テ人民更ニ下院ヲ設ケテ以テ租税ノ増加
ヲ許允セシハ曾テ上下両院ノ此挙ノ為メニ大ヒニ権威ヲ失セ
シ内閣ノ諸大臣等黙職トナリシ後チニシテ当時人民漸ク國ノ
危急ヲ洞察シ到底租税ヲ増加シ各其出ス所ヲシテ一層多ケカ
ラシムルニアラザレバ他ニ全國會計上ノ窮迫ヲ救フノ道之レ
ナキヿヲ了知スルニ至レリ